

**新型コロナウイルス感染症
緊急事態宣言発令中**

不要不急の外出や移動は控えてください
マスク着用、手洗いなどの感染対策を

8面に事業継続支援金(令和3年1月~2月)
と新型コロナワクチン接種コールセンター
を掲載

3.11東日本大震災から10年 ~あの日の記録48時間~

平成23年3月11日、今まで経験したことのない地震が発生。

災害対策本部の立ち上げ、被害状況の把握、防災行政無線の放送、避難所開設、帰宅困難者の対応など地震発生から48時間の記録。

3月11日 金曜日

午後2時46分 地震発生

三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で深さ約24kmを震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。

午後2時48分 地震発生、我孫子市で震度5弱を計測。市議会本会議が開催中。

午後3時2分 防災行政無線(地震情報)

午後3時15分 地震発生

震度4を計測 布佐都地区で液状化が発生

午後3時25分 防災行政無線(地震情報)

午後3時58分・4時15分 防災行政無線
(水道水の節水を呼び掛け)



**午後3時30分
配備検討会議**

職員の3分の1が災害対応に当たる第1配備とすることを決定。

**午後3時55分
第1回災害対策本部会議**

本部長(星野市長)は、布佐地区の状況を含めて被害状況を把握するよう指示。各部署では被害状況を確認。



午後5時 第2回災害対策本部会議

報道などの情報確認、被害状況の報告、学童などの預かり、避難所設置など。



ライフライン、帰宅困難への備え

- 家族などと安否確認の方法、集合場所、帰宅経路の状況を確認。
 - スニーカー、懐中電灯、モバイルバッテリー、手袋、飲料水や食料などを用意。
 - 携帯ラジオや地図を持ち歩く。
- ※多くの人が一斉に帰宅を始めると、火災や落下物などにより負傷する恐れや救助・救急活動の妨げになります。身の安全を確保し、職場や集客施設などの安全な場所にとどまることも大切です。

午後7時 第3回災害対策本部会議

被害状況の報告、保育園での預かり、児童・生徒の預かり、帰宅困難者への対応など。

午後7時21分・24分 防災行政無線
(布佐中学校避難所開設案内)

午後7時36分 防災行政無線
(緊急地震速報※自動放送)

午後7時34分、午後9時53分
防災行政無線(布佐中学校避難
所開設案内/節電のお願い)



地震発生時の情報収集 「さまざまなデマに惑わされない」

市、消防署、警察署などの広報やテレビ、ラジオなどで**正確な情報**を確認。

3/11

11日の会議では本部員から次々に被害状況が報告された。青山、青山台、中峠、中里、布佐など停電約2800戸、断水約1700戸、常磐線・成田線の一時的運転見合わせ、携帯電話不通、道路損傷・塀倒壊や公共施設の被害など多数。我孫子駅は、運転見合わせにより帰宅困難者であふれた。我孫子駅南口にあるけやきプラザと我孫子南近隣センターを帰宅困難者のために開放した。

3月12日 土曜日

午前6時59分 防災行政無線(節電のお願い)

午前8時 第4回災害対策本部会議

一夜明け、布佐都地区の液状化の被害状況や大きさが明らかに。布佐地区に**現地対策本部**を設置、配備体制を拡大。配備体制は第2配備へ移行し、職員の3分の2が災害対応に当たることに。



被災地視察(布佐地区など)

午後1時 第5回災害対策本部会議

被害状況の報告、布佐地域対策支部の対応や体制、仮設トイレの設置など。

午後1時48分 防災行政無線(布佐地区仮設トイレ設置案内)

被災地視察(若松、青山台、柴崎台地区など)

午後6時 第6回災害対策本部会議

被害状況の報告、計画停電への対応、学童の引き渡しなど。

午後10時16分 防災行政無線(緊急地震速報※自動放送)

3/12

12日は会議を行いながら現地視察など状況の把握を行った。この日以降、ガソリン不足への対応や市内の被災者支援、被災地の復旧、市外避難者の受け入れ、放射能への対応、東北被災地への支援など、本格的な支援・復旧が始まった。



地震の発生を防ぐことはできません

東日本大震災からの教訓 大切な「自助」と「共助」

自助

日頃からの備え 備蓄の目安は3日以上

「自助」とは、自分の命は自分で守るということです。災害発生時は、まずは自分の身は自分で守ることが一番重要です。地震発生から市や県などの本格的な復旧が始まる3日目までは自分でしのぐことが大切です。

共助

地域のコミュニケーション

「共助」とは、住民同士や自主防災組織を結成するなどして、地域で協力して災害からの対応を行うことです。自分たちの地域は自分たちで守るということです。